Acanthus club

2014.9.1 No.1

土浦一高東進会アカンサスクラブ

実行委員長　花上克宏 k.hanagami.ic@hitachi-kenki.com
事 務 局 長　伊東明彦 itou.akihiko@sed.co.jp

アカンサスクラブの発足

平成18年度から総会は懇親会だけではなく会員の中からショートスピーチをして貰うという企画をして好評を博しております。

ただ、時間が足らないのでもっと聞きたいという意見や、総会・懇親会とは別の機会にもという意見などが出ました。

東進会には、謳粋会という会合があって、毎月欠かさず開催され来年3月には創立200回を迎えます。しかし、東進会には文化活動が無いので、昨年の総会の際、大野会長から総会時とは別に研究会兼懇親会の場を設けたらどうかと提案がありました。

その後数名の有志が集まり、会の名称、実行委員会の体制、開催の頻度等を数回にわたり協議してきました。

名称は、渡辺慎一委員の提案で「アカンサスクラブ」に決まりました。重要文化財に指定されている土浦一高旧本館の正面玄関の三連アーチの柱頭部にはアカンサスの花、東西の通用口の軒の屋根には葉を象った装飾が刻まれ、旧本館の西側には6月になるとアカンサスが咲き乱れます。土浦一高進修同窓会旧本館活用委員会の在校生向け月報の名称も「Acanthus」です。

実行委員会の体制は、平成25年8月29日下記のとおり決まりました。（カッコ内は卒業年次）

実行委員長: 花上克宏(S50)
副 委 員 長: 星川美代子(S50) 桜井成一朗(S55)
酒井学雄(S56)
事　務　局: 伊東明彦（事務局長 H5）中根千枝(S58)
五十嵐朝青,白鳥玲子,菱沼邦彦(H6)
緒方浩一（会計担当 H7）
特 別 顧 問: 大野金一(S31),飯塚哲哉(S41)
渡辺慎一(S43),君山利男(S48)

開催の頻度については、当面は年数回程度とすることになりました。

第1回アカンサスクラブを開催

アカンサスクラブの第1回会合は、大野金一東進会会長の講演（別稿）で平成26年4月16日神田学士会館で開催されました。出席者は26名でした。

テキスト“語源(ラテン語)から体系的に学ぶ「英語・英会話自由自在（小学生から大学受験まで）”は当日配布されたので、すぐには意見を出せなかった方もいたでしょうが、寄せられた感想は次のとおりです。今までにない斬新な切り口で分かりやすい、最近の子供は論理的に考えるのが不得意、マニュアルがないとだめとか、世界を旅すると英語圏でない国でも子供達が自由に英語で話している、世界中で使われる言葉は残念ながら分かりにくい米語ということに対しエスペラント語が世界の標準語になるべきである等、海外生活経験者からの意見も含め、議論は大いに盛り上がりました。

要するに、日本の従来の英語教育の問題に尽きると思われました。（花上記）

1時間で覚える英会話

講師　大野 金一

はじめに

私は、大学卒業後自治省（現在の総務省）を経て弁護士を開業し、その後、大学時代部活としてハンドボールをしていた関係で日本ハンドボール協会の役員を引き受けましたが、オリンピックや世界選手権大会の団長として派遣されたり、国際会議に出席する機会がありました。そのために、忙しい弁護士業務の傍らいくつか英会話の教材をかじりましたが、普段は英語を使うわけではないので、本格的に打ち込んだわけではありません。そのような中で、如何に効率的に英会話を学ぶかを考えました。

英文には数少ないいくつかのパターンがあるだけ、問題はそのパターンに当てはめる単語をどうして覚えるかです。

1960年代に刊行された小川芳男著「ハンディ語源英和辞典」（有精堂）が単語の末尾に語源のラテン語と類似の英単語を括弧書きしていたので、逆にラテン語から英単語を覚えた方が楽だと考えました。そうすると、ラテン語から芋づる式に語彙を増やしていくことができます。しかも、そうして覚えた単語は、漫然と覚えたものと違って絶対忘れません。

私はもともと「平成寺子屋・大翔塾」の構想を持っていて、そのテキストにと本年1月“語源(ラテン語)から体系的に学ぶ「英語・英会話自由自在（小学生から大学受験まで）”を出版しました。大翔塾は、小学生の頃から英語を母国語とする外国人とともに英語になじませグローバルな時代を生き抜くという目的もありましたが、積極的に運動させ「正常に」育てるという目的もありました。「正常に」というのは、現代の子は、遊び場がないということもありますが、屋内でゲームやスマホをやったり、小学生から塾通いをしていて運動をしません。ゲームのような単純な作業をしていると、前頭前野を使わないいわゆる「ゲーム脳」になってしまうそうです。運動をすると、例えば、飛んでくるボールを感知して、その落下地点を前頭前野で計算し、頭頂の運動野に指令を出して落下地点に走って捕球をするという動作をしますが、ゲームでは、右脳で感知したら前頭前野を飛び越してすぐ運動野に指令が行くため前頭前野の機能が低下し（池田小事件の鑑定結果）、人とのコミュニケーションが取れない人間になってしまうということです。

今日は、このテキストを使ってお話を進めてまいります。

1. 英語の発音・・・・・P1.P56（以下、Pはテキストの頁）

日本では相当の時間を使って英語を学習しているが、世界で通用しないと言われているのは、日本ではローマ字から入り外来語はカタカナで覚えるからです。

まず、英語の発音は、ローマ字読みではなく、その中間音です。

また、英単語は、syllable(音節)毎に切る a-pple（2音節）のに対して、和製英語はカタカナ毎に a-p-p-le（4音節）

さらに、英語は liaison と言って単語が繋がって発音される（例えば、Thi-si-sa-napple.）が、和製英語ではご存知のとおり This-is-an-apple.と単語毎に発音されます。

日本の英（会）話教育は中学校から始めますが、平成26年度からは小学5・6年で必須とされました。しかし、英語の発音は、小学校でも遅すぎます。赤ちゃんの頃から親からアップ

ル（ジュース）とカタカナ発音で教えられ、小学校でも同じように教わります。発音だけは、親も意識して本来の英語の発音で話しかけることから始めるべきで小学5年では既に手遅れです。その自信がない人は、例えば東京書籍の「0 歳児からの英会話」という教材がお勧めです。ペンを絵や簡単な会話文に当てると正しい英語の発音が聞こえてきます。

因みに、中国人は英語の発音が上手だと思います。中国語の発音は、英語同様中間音ですが、英語以上に発音が複雑です。特にカ行・サ行とニだけは日本語発音とは全く異なります。英語の l とrについて、舌の先l－奥rと教えられますが、中国語では、舌の(中－先－奥)を使い、

[例] カ　jiā(佳)-qié(茄)-xià(夏) ・・・チとヂの間
　　gu ǎ (寡)-kē(科)-hé(河) ・・・コとゴの間
　サ　zuǒ(左)-cuō(瑳)-suō(娑) ・・・ツとヅの間
　ニ　rìběn(日本)・・・ニはリと発音

（抑揚（四声）の表示は、拼音（ピンイン）と呼ばれています。）

2. 英（会話）文のパターン

英語の構文は、次のとおりです。

①（be 動詞と自動詞・他動詞）
　×（現在・過去・未来・完了・進行）・・・・・P8～11
②受動態・5WH・命令形・・・・・P 5
③助動詞・感嘆詞・・・・・P 7

be 動詞か、自動詞、他動詞かによって、時制と受動態、5WH、助動詞の使い方が変わるので、be 動詞（イコール（～は～だ）又は状態）か、自動詞、他動詞かを意識して使うことを心がけることで、ことば（文章）がすぐに出てきます。

因みに、中国語の文法は日本語と同じです。

中国語と日本語は、漢字（音）と文法が同じなのに、一般の英会話教材や英会話教室と同じように中国語を学ぶことがいかに無駄か分かるでしょう。

3. 日常会話で使われる表現

（1）日常の会話では、短い“つなぎの言葉”（P51～52）が会話の中の70％）を占めると言われています。

いろんな相槌や否定の表現はもちろんですが、Would you please～？や May I ask～?の頼みごとやそれに対する応対、感謝、宥恕、気遣いやそれに対する応対の表現もいくつかあります。

会話では、自分の考えを述べたり、相手方の考えを質したりする場合が多いでしょう。その頭出しを覚えておくと会話が途切れません。

（2）また、起動動詞（し始める、し終える）や帰結動詞（turn to～,awake to～,stop to～,become,run,fall,die など）や曖昧な表現の文型（seem,look など）や、自分の意志・欲望・感情を吐露することは多いでしょうから、その頭出しも覚えておいた方がいいでしょう。（P53～55）

つまり、このようないくつかの基本的な会話体を覚えておけば、あとはいろんな場面で応用できます。市販の教材は、各場面（空港で、公園で、レストランで、ホテルでとか）において使われるような会話文を丸暗記させるのが多いようです。ゴルフのレッスンであれば、腕をああしろ、グリップをこうしろと、沢山打たせて体で覚えさせるのと同じです。そして、二言目には、「ゴルフはメンタルなスポーツ」と難しくしますが、ゴルフスウィングも各関節の動きとそのバランスという骨格を理解しているかどうかの問題です。あとは慣れです。英会話も、海外旅行、ビジネスなど必要に応じて慣れるだけです。ネットのスクリプト（文章）付きニュースを聞いたり、TVの日本語の会話を同時通訳してみたりとか。

4. 米会話ヒアリングのコツ・・・・・P56～58

英語ニュースなどを意識的に聞き分けようと聞いていると、自分もそれを発音していることに気付きます。人間にはミラーニューロンという神経細胞によって人の言葉、表情などを無意識にまねているそうです。幼児が親から言葉を覚えていくのもその働きのようです。

つまり、「発音」と「聞取り」は、表裏一体の関係にあるのです。ヒアリングも「口で（口蓋の中で）聞く」のです。また、自分が発した記憶のある表現は聞き取れるはずで、耳で覚えているのではなく「口」で覚えているわけです。

前に述べたように、日本語と英語の発音の違いのキーワードは、①中間音、②syllable、③liaison の3つです。これを意識して聞く必要があります。

ただ、意識的に聞き取ろうとすると、言葉の区切り（文節）の最初の部分に聞き手の神経が集中してしまい（緊張した待受け状態）、特に語調が変化するとそれに対応できず、相手の言葉を追いかけてしまう。そこで言葉の区切りがないと思って聞くと微細な音源を聞き取れます。

イメージとしては、口蓋の中で聞いた音を、ソーセージの薄皮の中を臍下丹田に落しながら、中間でその薄皮を軽く歯で（舌と歯列を摩擦して発する摩擦音に有効）噛むようにすると、瞬時に聞き分け判断し記憶することができます。

5. 当てはめる単語・・・・・P18～50

前に述べた英（会話）文のパターンに当てはめる単語は、自ら動く自動詞なのか他に働きかける他動詞なのかで覚えるイメージが違う、形容詞や副詞、前置詞にしても、空間なのか、時間的、数量的なものか意識して覚える、つまり、体系的に（予め区分けした抽斗に整理して）、感覚的に覚えると、すぐ言葉を引き出せます。

日本語の場合は、日常のことば自体は幼少の頃から覚え、小学校入学前には、日常会話は自由にできるようになります。小学1年で平仮名を覚え、その後2・3年で文法（助詞）や漢字やカタカナ（英語など外来語）を学習します。英語の学習も、前述のように発音は0歳児から外来語本来の発音で教え、脳の発達に応じて、日本語と同時に具体的な言葉から抽象的な言葉を覚えさせればいいわけです。このテキストは、そのように体系的に単語を覚えるように工夫してあります。

6. ラテン語から語彙を爆発的に増やす方法・・・・P59～154

イングランド（現在のイギリス）の言葉は、もともと西ゲルマン語（現在のドイツ語に進化する前の言葉）が使われ、現代英単語の 60%はドイツ語とほぼ同じスペルで、発音と性が違うだけです。（例：Gute(n) morgen(tag/nacht)．

ノルマンディ公が支配してから 350 年間（日本の江戸時代）はラテン語由来のフランス語が公用語にされました。ラテン語は、周辺国のイタリア語・スペイン語・ポルトガル語に受け継がれ、フランス語（男性・女性のみで中性なし）へ、更に現代英語（性別なし）へと発展して行ったので、英単語の70％はラテン語由来のフランス語と共通しています。

例えば【行く】は、もともと”go”(ドイツ語 gehen)でしたが、ラテン語は”cedere”(ローマ字式にセデーレと発音)。この頭に a(接近),con(集中),ex(外へ),pre,pro(前へ),re(後ろへ) de,su(下へ),ne(否定)を付けて、accede,concede,exceed, precede,procede,recede,decease,succeed,necessary と派生します。このテキストの後半では、ラテン語動詞 190 語から英語動詞の原形だけでも 1571 語の原形が芋づる式に覚えられます。（動詞以外は 189 語から派生した 919 語を掲載）

これで、「試験に出る英単語」（青春新書・1975 年まで 70 年間の大学受験出題単語）をカバーしているので、テキストの副題に「小学生から大学受験まで」と謳っているわけです。

また、世界の主な言語であるドイツ語、フランス語、スペイン語の学習にも役立ち、あと中国語を効率的に覚えれば、今すぐ世界に羽ばたく（翔ける）ことができます。

※テキストご希望の方は土浦一高東進会のホームページへ